

原宿だより

発行

遠藤ボランティアグループ

代表 原山建郎

二〇二〇年度を振り返って 原山建郎代表

遠藤周作さんの作品を再読する

昨年二月に始まった新型コロナウイルス感染拡大の影響により、二〇二〇年度の遠藤周作の活動はすべて休止といたしました。

ところで、この三月に開講した「あだち区民大学塾」の『遠藤周作を読む 「人生の同伴者」イエスとは』講座で、著書『聖書のなかの女性たち』から、手術後の痛みを訴える患者に寄り添う看護婦さんのことばを紹介しました。

——「そんな時、あたしたちは患者さんの手を握ってあげるんです。するとふしぎに今まで呻いていた患者さんが少しづつ静かになるんです」（中略）私たちが苦しんでいる時はふしぎなことだが、「私だけが苦しんでいる」ような孤独感がどこかにまつわりついている。（中略）この孤独感はだれの心にもどこかで強く結びつけられている。——

私たちのボランティア活動もまた、入院患者や介護施設利用者の皆さんにとって、「人生の同伴者」の一人でありたいものです。

☆遠藤順子さんのお手紙（一部）

〈遠藤VGに関する原山代表の連載コラムをお送りしたことへのお手紙を頂戴した〉
「昨日は頂きましたお原稿のコピーを早速主人のところへ供えさせて頂きました。私も主人が慶應へ入っております頃、色とりどりのエプロンでふき掃除をしたり、花の水をとり替えたりして下さっておられましたボランティアの方々が、病院へ持ちこんで下さる日常性にどれだけほっとした気分を味わせて頂いたか判りません。上下関係になり勝ちな病棟内に第三者の眼があるだけで、病院の雰囲気は随分と変わったと思います。」

訃報

『周作クラブ』会報第82号に、遠藤ボランティア・グループ顧問もつとめられた遠藤順子さんの訃報が載っていました。

去る1月16日早朝、遠藤順子さんが入院先の病院で亡くなった。93歳だった。1週間ほど前から発熱が続き、容体が徐々に悪化したもので、診断名は心不全。密葬とミサは同月19日、近親者によってすでに済まされた。

（遠藤順子さんの墓所は、夫・遠藤周作の眠るカトリック麹町聖イグナチオ教会）
心からご冥福をお祈り申し上げますとともに、遠藤ボランティア・グループへの長年にわたるご尽力に感謝いたします。

遠藤ボランティアグループ理念「四つの願い」

- 一「心あたたかな医療」の実現をめざします。
- 二患者さんの声に耳を傾けます。
- 三患者さんの目線で優しく寄り添います。
- 四ささやかなお手伝いをします。

2020年 新型コロナウイルス感染禍の事務局の一年



2月 新型コロナウイルスの感染拡大が起き3月まで活動休止とする。感染の収束を待っていたが緊急事態宣言が発出され、外出自粛のために総会を開くことができなかった。会員へは総会用に準備していた報告資料を配布した。

7月 活動休止を年内まで延長し、コーディネーターを通して各活動場所にお知らせをした。

12月 再び感染者数が増加したため期限なしの活動休止を決め、お知らせを発送した。



現在進めていることは、例年ならば総会に向けて行う会計関連についてです。まずは完了できていない前年度の会計監査を行い配布いたします。次に今年度中の郵送費やホームページ管理費などの出費の精算をして会計報告を作成します。新年度分の会費は徴収せず今年度の会費を流用することにします。そして活動が再開できる時点で各会員に確認した上で名簿作成、ボランティア保険申請をする予定です。今後についてご意見などあればお寄せください。

ワクチン接種が始まっていますが、ウイルスの変異株の感染拡大の傾向がみられるため、終息に向かっていないとは思えません。この状態がいつまで続くかわかりませんが、必ず活動が再開できると信じて、一人ひとりが今できることをやりましょう。

大河ドラマの渋沢栄一と養育院

(東京都健康長寿医療センターHPより)

明治の初め、首都東京の困窮者、病者、孤児、老人、障害者の保護施設として現在の福祉事業の原点ともなる養育院が設立されました。

渋沢栄一は1874(明治7)年養育院の運営に関与し、1876(明治9)年5月11日に養育院事務長に任命されました。養育院は、1890(明治23)年、東京市営となり、渋沢栄一は養育院長に就任し養育院廃止論の逆風を受けながらも養育院を存続させ、以来91歳で亡くなるまで約50年間院長を続け事業を拡大させました。

・高齢者福祉への転換、昭和61年東京都老人医療センターに改名
 ・都の組織改訂により、現・地方独立行政法人・東京都健康長寿医療センター



渋沢栄一の銅像
板橋区栄町の東京都健康長寿医療センター正面入口向かって右側にある公園の中に立っている。

コーディネーターから声が届きました♪

※※※※※※※※※※※※※※※※

♥東京衛生病院(東さんの報告)
 衛生病院のチャプレンから再開についてのメールをいただきました。
 一応、ワクチンが行き渡りボランティアがワクチン接種を終えたくらいを目処にとのお考えのようです。

※※※※※

♥関東中央病院(加藤さんの報告)
 病院とのコンタクトはありませんが、教職員関係の病院ですので、このコロナ禍では切迫した状態と想像します。一日も早くボランティア活動ができる環境になることを願います。

※※※※※

♥虎の門分院(星さんの報告)
 久しぶりに分院に行き、図書コーナーでメンバーの梶浦さんに会いました。本はいつもと変わらず患者さんに利用されているようです。ボランティア担当の根岸さんにもお会いできましたが「再開の見通しは立たない」ということです。

※※※※※

♥さくらテラス青葉町(印部さんの報告)
 施設に連絡を取ってみると、大変そうな様子で、ボランティアが入れるのはまだまだです。メンバーは「早くボランティアしたいね。」と言っています。
 それと「あのクリスマスカードとてもよかった」と喜んでもらえました。



お久しぶりです!

(元伊藤病院メンバーKさん)

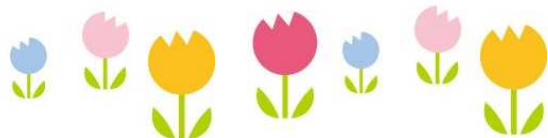


我が子は1歳になり、元気いっぱい!目が離せなくなってきました(汗)来月からは保育園。とても小柄で成長もゆっくり目ですが、先輩会員からの「比べてはいけない」というおコトバを肝に銘じて、ゆっくり成長を見守ろうと思います。
 親になって病院のキッズスペースの有り難さが良く分かるようになりました。
 まだ落ち着かない世の中ですが、安全にお過ごしください!
 2021.3.10

BOOK ENDOH

☆☆問い合わせがありました☆☆

昨年の講座後にお二人の方から活動について問い合わせがありました。
 今年2月には虎の門分院と伊藤病院での活動について問い合わせがありました。3月になって虎の門小児科での活動を希望する方からホームページにメールが届きました。現在の状況を説明し、「活動が再開されたらすぐに連絡いたします。」とお伝えしました。



「痛い在宅医」「痛くない死に方」
 長尾和弘 著 ブックマン社
 映画「痛くない死に方」はこの二冊を原作に高橋伴明監督が撮りました。若い在宅医が終末期の患者に向き合い、悩みながら成長していく話です。
 先輩の医師に教えを請う場面での台詞に「患者の病気だけを見るのではなく、その人の人生という物語に寄り添う」とありました。遠藤先生が求め続けた「心あたたかな医療」が実現していることを感じさせる映画です。